

6000を超す臨床例が実証。 2つのポイントを押して、 痛みと症状を改善する 【新ツボ療法】。治療時間を 選べば、さらに効果的に効く！

ペレス・銀座クリニック院長 こう しょうし 柯 尚志

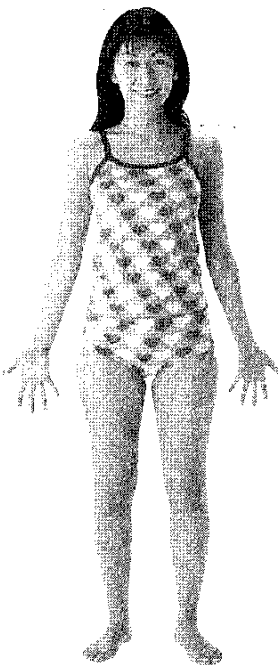


プロフィール
台湾出身。鹿児島大学医学部卒業後、九州大学病院麻酔科、国立九州がんセンター放射線科をへて、内科医を開業。その後、上海中医药大学国際鍼灸科に学び、痛み治療の研究にとり組む。平成14年、東京銀座に難治性痛み治療専門医院を開業。著書に『消痛革命』土屋書店。ペレス・銀座クリニック ☎03・5537・1260

痛みがとれる 画期的な方法を発見！

私たちの体内は、血液・リンパ・神経・ホルモン・水・空気・栄養素・分泌物・生命力・気……などで満たされています。それらが体内を常に流れているから、生命が維持できているのです。私はこれらを総称して「生体の流れ」と呼んでいます。

では、生体の流れに何らかの支障が生じて、流れが滞ったり止まった



血液・リンパ・神経……が流れているからこそ、生きている

りすると、どうでしょう。そこに、痛みやしびれをはじめとする、さまざまな不調が発生するのです。

つまり、停滞した生体の流れをスムーズに戻すことができれば、痛みや症状は解消するというわけです。

これは、研究を重ねてきた結果、確立することができた、独自の痛み治療です。私は西洋医学と東洋医学の両方を学びましたが、どちらも問題点を抱えています。西洋医学は臓器中心の医療のため、断片的な治療しかできません。東洋医学は理論体系が明確にされていないので、応用が効きません。東西両医学の問題点をとり除き、さらに日本の風土を考慮した、日本型の医学なのです。

迂回路をつくって 流れをスムーズにする

皆さんは「経絡」という言葉をご存じでしょうか。「経絡」は、「気」が流れる道筋。血液が血管を流れるように、体内には「気」が流れる道筋があるという考え方です。東洋医学では治療の根幹となっています